ひと

笑顔のイベント「メリー・イン・ニューヨーク」を開いている

水谷（みずたに）　孝次（こうじ）さん

見ているこちらもほおが緩むような笑顔が約四百。9・11テロから一年たったニューヨークで「あなたにとってメリー（MERRY）とは何ですか？」と問い掛けながら写真を撮った。メッセージとともに展示する「メリー・イン・ニューヨーク」を東京・六本木の「THINK　ZONE」で開いている。

「不幸が大きい分だけ、笑顔が美しい。ともに負の遺産を持つ、神戸でやったときにもそう感じました。撮っている僕にも、見る側にも、勇気や希望をくれる」

「メリークリスマス」のメリー。楽しさ、幸せ、希望といったポジティブな感情をその言葉に託した「メリープロジェクト」は、一九九九年に始まった。笑顔とメッセージをさまざまな方法で見せる。今回は五万部の〝新聞〟にしてニューヨーク、ロンドンでも同時に配った。

本業はアートディレクター。広告業界に札束が乱れ飛んだバブル時代を経験した。忙しく働き、数々の賞を受けながらも、むなしさが募った。

「すべては商品を売るためのウソ。こんなことはおかしいとずっと思ってました」

その後、米国を旅するバスの中で、無邪気な少女たちにカメラを向けたのがプロジェクトのきっかけになった。「笑顔は世界共通のコミュニケーション手段。これこそ最もシンプルで力強い、二十一世紀のアートじゃないかと思うんです」

不況だからこそ「やるべきことがはっきり見える」と笑う。五十一歳。名古屋市生まれ。

不幸が大きい分だけ、笑顔が美しい